

都市基盤技術サイト(てくTechまちさんぽ)について

国交省からのリンク

日本語: http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000057.html

英語: <http://www.mlit.go.jp/en/toshi/index.html>

都市みらい推進機構トップページからのリンク(www.toshimirai.jp)

IFUD Institute for Future Urban Development
都市みらい推進機構は、平成24年3月に新しい公益法人制に基づき内閣府より公益性の高い、非営利型の一般財団法人への移行認可を受け、同年4月より一般財団法人として活動しております。設立以来今日まで、まちづくりに関するさまざまな事業を実施し、最近以降に以下のテーマに取り組んでいます。

HOME 機構の概要 機構の主な活動 講演会・シンポジウム 自主研究 調査・計画 刊行物の紹介

都市みらい推進機構の主な活動

- 都市再生の推進
- 都市拠点の整備
- 地域のまちづくり支援
- 土地の有効活用
- 都市開発事業者の公募・選定

まちづくり情報交流システム まち交ネット

会員ライブラリー

パンフレット (PDF/3.4MB) 活動のしおり (PDF/330KB) 都市みらい通信

関係団体

- まちづくり情報交流協議会
- 都市地下空間活用研究会
- アーバンインフラ・テクノロジー推進会議

リンク集

- 国土交通省
- 一般財団法人民間都市開発推進機構
- 土地情報総合ライブラリー
- 都市計画CPD

Copyright © Institute for Future Urban Development. All Rights Reserved.

このバナーから本サイトにリンク

<目次>

1. サイトの概要

2-1. 日本語サイト

2-2. 英語サイト

3. 今後の課題

<参考>アクセス実績

1. サイトの概要

<趣旨>

- ① 2020年に向けた官民連携による「シティーセールス」や「都市基盤技術（交通、都市開発等）の海外展開」を目指した取組みの1つ
- ② これまでになく取組みとして官民連携による企業横断的な情報発信の受皿であるポータルサイト（日本語、英語）を制作し、平成28年9月末に公開
↑
2020年に向けて「日本の都市基盤技術や都市への海外からの関心の高まり」や「民間企業の海外向け情報発信の充実」が期待されるため

<経緯>

- ① 平成26～27年度 国土交通省調査
 - ・情報発信の必要性
 - ・ポータルサイト形式がふさわしい
 - ・企業ヒアリングを踏まえ、マスターサイトを作成※ H27年度調査：<http://www.mlit.go.jp/common/001138908.pdf>
- ② 平成28年度上期 アーバンインフラ・テクノロジー推進会議（UIT）
 - ・参加企業を募り、マスターサイトをベースにポータルサイトを制作、公開（9月）※ UIT：国土交通省・地方公共団体・民間企業（デベロッパー、鉄道、建設等）による官民連携組織
- ③ 平成29年1月 UITから国土交通省関係各課へ説明 → 関係団体へ説明

1. サイトの概要

<主要コンテンツ>

- ① 都市基盤技術 …… まちづくりに関わっておられる方(専門家)向け
- ② まち歩き(東京)、(大阪) …… 一般の方向け

<サイトの管理運営>

アーバンインフラ・テクノロジー推進会議(UIT)

都市基盤技術サイト事務局 阿部、堀内、原田、福田

電話 : 03-5261-5625(都市みらい推進機構)

メールアドレス : info-portal☆uit.gr.jp (☆印を@に置換えて下さい)

- ※ サイトへの参加資格 : UIT会員・非会員を問わず
- 今後の参加費用 : 当初登載費 10万円(税込) + 管理運営費 6万円(税込、年間)



① トップページ



日本における都市基盤・都市開発関連の技術紹介



English 日本語


ホーム


日本における都市基盤技術


まち歩き (東京)


まち歩き (大阪)


参加企業

都市基盤や都市開発プロジェクトを支える都市基盤技術を中心に紹介します。



PAGE TOP

国土交通省都市局と都市の基盤整備や開発に関連する団体、企業の協働による都市基盤技術に関するポータルサイト

国土交通省から



都市基盤技術

都市基盤整備や都市開発に関する技術を安全（防災性向上）、低炭素（環境負荷低減）、利便（円滑移動）などの分類に分けて紹介します。

てくてくぶらりまち歩き

～テクノロジーなまち歩き案内（東京駅、大阪駅）「駅で乗り物を降りて、まちを歩く、ビルに入る・・・」都市での生活の何気ない息遣った光景ですが、実はいろいろな技術に支えられています。このサイトを見ながらまちを歩くと、「見慣れたまちが楽しいスポットに見えたり、科学館に見えたり、近未来都市に見えたりするかも・・・」

まち歩き (東京)

まち歩き (大阪)



参加企業

都市の基盤整備や開発に関連する団体、企業の紹介です。

PAGE TOP

関連サイト



国土交通省



アーバンインフラ・テクノロジー推進会議
The Urban Infrastructure & Technology Promotion Council

最新情報

2017.01	農務局 Facebookページに関連情報を発信。順次、発信していきます。
2017.01	三菱電機 都市基盤技術ページに「環境省エネ対策」を追加
2016.10	力中工務店 まち歩きページに「プロジェクト案追加
2016.09	このサイトを公開しました。ご利用ください。

一覧を見る

PAGE TOP

ホーム | 日本における都市基盤技術 | まち歩き (東京) | まち歩き (大阪) | 参加企業 | お問い合わせ






安全快適で魅力的な日本の都市を実現している技術と製品について、価値とテーマの視点から紹介します。

I. コーディネート・マネジメントによる価値の創造・向上 (計画・管理) (19)

- ・マスタープラン、土地利用計画等
- ・大規模複合開発
- ・地域活性化
- ・エリアマネジメント
- ・生物多様性
- ・ワークプレイス
- ・鉄道施工・工法計画
- ・道路土木計画関連製品

II. 安全で持続可能な都市環境の整備 (防災性向上) (24)

- ・災害に強い安全・安心な都市づくり
- ・地域防災計画
- ・BCP
- ・耐震・制震等
- ・避難計画立案支援
- ・火災防災設備
- ・超高層関連技術・工法
- ・建物地震防災診断
- ・防災関連土木工法・製品

III. 高効率で低負荷のエネルギー社会の実現 (環境負荷低減) (30)

- ・環境計画・環境マネジメント
- ・スマートシティ
- ・スマートエネルギーネットワーク
- ・地域冷暖房
- ・高効率熱源機器
- ・ZEB
- ・BEMS
- ・省エネ関連技術・設備
- ・大規模木造建築
- ・再生可能エネルギー (太陽光、バイオマス等)
- ・自然の光、風の活用
- ・低炭素施工
- ・鉄道における環境への取り組み
- ・振動・騒音
- ・鉄道・道路等防音製品

IV. 快適便利な交通システムの整備 (円滑移動) (20)

- ・鉄道
- ・モノレール
- ・道路
- ・駐車場
- ・機械式立体駐車場
- ・機械式立体駐輪場

V. 自由に暮らせるユニバーサルデザインの確立 (ユニバーサルデザイン) (5)

- ・ユニバーサルデザイン計画等
- ・ICカード
- ・測位技術
- ・ビル内昇降機

VI. 高度かつ正確な建設技術による高度な都市空間の実現 (高度都市空間) (16)

- ・次世代に繋げる景観づくりと土木遺産の保存、利活用
- ・鉄道施設施工計画
- ・鉄道建設プロジェクトを支える新技術
- ・工事中の既存都市機能確保、鉄道近接
- ・駅前広場、地下通路、地下街等
- ・大空間技術
- ・シールド技術
- ・医療・福祉
- ・学校・教育
- ・道路

VII. 運営・保守による機能の維持・保全 (維持管理) (10)

- ・道路・港湾等インフラ保全計画・設計
- ・リニューアル
- ・エネルギーマネジメント
- ・ビル運営管理・設備管理
- ・耐震補強工法
- ・施設・鉄道設備保守
- ・歴史的建造物

II. 安全でサステナブルな都市環境の整備 (防災性向上)

災害に強い安全・安心な都市づくり

地域防災計画

BCP

耐震・制震等

避難計画立案支援

火災防災設備

超高層関連技術・工法

建物地震防災診断

防災関連土木工法・製品

ALL

PAGE TOP

鉄道における地震対策

過去の地震を教訓とした①列車緊急停止対策②耐震補強対策③列車の線路からの逸脱防止対策の3点の紹介。



JR東日本

[関連サイト](#)

津波キーパー (津波・漂流物防護柵)

海岸沿いの道路や港湾施設に設置します。津波来襲時に、漂流物の捕捉や越流の流入を遅らせる事ができます。



神鋼建材工業株式会社

[関連サイト](#)

ビルメディカルシステム®建物モニタリング診断システム

免震技術

免震構法とは、建物の基礎または中間層に免震装置が設置されている免震層を設け、免震層で地震エネルギーのほとんどを吸収することによりその上階への地震力を減じ、建物の耐震性を大きく向上する技術



株式会社竹中工務店

HSB鑑別所
ザ・森島タワー・かほりまちテラス
日本橋ダイヤビルディング
池袋第一生命ビルディング

インプラント地すべり抑止工法

鋼矢板や鋼管杭など剛性の高い構造部材を地中に打ち込み、支持層と一体化させて地すべりを抑止する工法



ハイジュールネット (落石防止柵)

本製品は、落石エネルギー250kJ~3000kJまで対応する高エネルギー吸収型落石防止柵です。

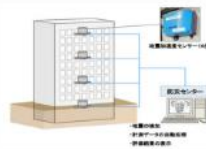


神鋼建材工業株式会社

[関連サイト](#)

安震モニタリングSP

地震発生後即時に建物の安全性(継続使用の可否)を高精度に評価するモニタリングシステム



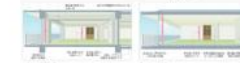
清水建設株式会社

[関連サイト](#)

清水建設本社

特許技術「スーパーRC構法」(東京タイムズタワー)

ライフスタイルに応じたフレキシブルな住まいを創造する超層フリープランハウジングの実現



鹿島建設株式会社

[関連サイト](#)

超高層RC技術「SuperHRCシステム」SHRCS®

材料の高強度化、免震・制震化、プレキャスト化に重点を置き開発を進めてきた、超高層RC技術です。

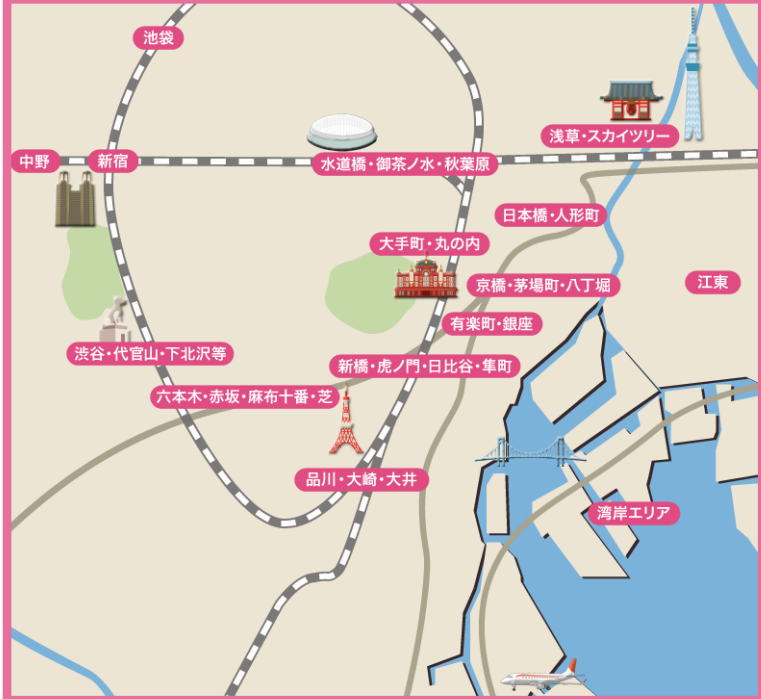


PAGE TOP

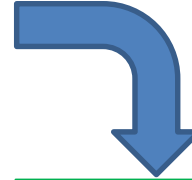
2-1. 日本語サイト

③ まち歩き(東京)ページ (計113プロジェクト)

東京及びその周辺における都市開発プロジェクトや交通・エネルギー等の都市基盤についてエリア毎に紹介します。



- 大手町・丸の内
- 品川・大崎・大井
- 六本木・赤坂・麻布
十番・芝
- 日本橋・人形町
- 水道橋・御茶ノ水・秋葉原
- 浅草・スカイツリー
- 日本橋・人形町
- 大手町・丸の内
- 京橋・茅場町・八丁堀
- 江東
- 有楽町・銀座
- 新橋・虎ノ門・日比谷・隼町
- 六本木・赤坂・麻布十番・芝
- 品川・大崎・大井
- 湾岸エリア
- 池袋
- 中野
- 23区北部
- 荒川周辺
- 多摩川周辺
- 23区外
- 横浜
- 千葉・茨城




大手町・丸の内周辺の天気
18日(金) 19日(土) 20日(日)

15°C 4°C 10°C 5°C 20°C 7°C

東北北貫線南部工区建設工事 (上野東京ライン)

丸の内永楽ビルディング地下接続通路

丸の内永楽ビルディング(千代田区)歩行者専用道第5号線

④ まち歩き(大阪)ページ (計24プロジェクト)

2-1. 日本語サイト

⑤ 参加企業一覧ページ(現時点で33社参加、各社トップページにリンク)

デベロッパー	
■ 三井不動産株式会社	○
■ 三菱地所株式会社	○
■ 森ビル株式会社	
■ 東京建物株式会社	
■ 大和ハウス工業株式会社	
鉄道	
■ 東日本旅客鉄道株式会社	○
■ 東海旅客鉄道株式会社	○
■ 西日本旅客鉄道株式会社	○
■ 東京地下鉄株式会社	○
■ 小田急電鉄株式会社	○
■ 京王電鉄株式会社	○
■ 東京急行電鉄株式会社	○
ゼネコン	
■ 鹿島建設株式会社	○
■ 株式会社大林組	
■ 清水建設株式会社	○
■ 大成建設株式会社	○
■ 株式会社竹中工務店	○
■ 戸田建設株式会社	
■ 西松建設株式会社	

メーカー	
■ 三菱電機株式会社	○
■ 株式会社日立製作所	
■ 株式会社IHI	
■ 新明和工業株式会社	
■ JFEエンジニアリング株式会社	
■ 株式会社技研製作所	
■ 神鋼建材工業株式会社	
■ 荏原冷熱システム株式会社	
設計・コンサル	
■ 株式会社日建設	○
■ 株式会社日本設計	○
■ 株式会社オリエンタルコンサルタンツ	○
■ パシフィックコンサルタンツ株式会社	
エネルギー	
■ 東京ガス株式会社	○
■ 大阪ガス株式会社	○

○ : UIT会員(19社)

2-1. 日本語サイト

⑥ スマホ対応画面



⑦ 現在地表示機能

・スマホ、タブレットでまち歩きページ・エリア内で閲覧時に、現在地表示が可能

⑧ 日本語・英語サイト横断検索機能

・ページ上部にある検索キーワード入力欄に

日本語あるいは英語で社名、技術名を入れると関連コンテンツ一覧が表示される



① トップページ

・日本語サイトとの違いは「国交省メッセージ」

Japan is an island country with an elongated shape extending in a north-south direction, and precipitous geological formations. Its population is concentrated primarily in river basins and plains. It is in those limited areas where Japan's major cities have developed. Japan is also an earthquake-prone country. We cannot ignore the risk of earthquakes and other disasters in our urban areas. We have received warm support and assistance from countries all over the world in the aftermath of natural disasters such as the Great East Japan Earthquake and the Great Hanshin Earthquake.

Japanese cities were built by effectively utilizing limited areas with emphasis on safety from disasters. At the same time, consideration was given to ensuring that large numbers of people can efficiently and comfortably live and pursue activities in such cities.

For this purpose, various urban infrastructure technologies are utilized in the improvement and maintenance of urban infrastructure and urban development. These technologies cover a broad range of applications from individual technologies for specific facilities, etc., to planning, coordination and management technologies for efficient construction and managing cities in confined areas.

Tokyo will be hosting the 2020 Olympic and Paralympic Games. Japan will become the focus of global interest and attention, and people from all over the world will visit our country. For this reason, the Government of Japan is engaging in efforts to boost inbound and outbound policy. Similar efforts are being made in the sector of urban development as well, and we are confident that in this process, we can sufficiently harness our urban infrastructure technologies to provide support for professionals and business people who have chosen Japan as the base of their activities in Asia and experts engaged in urban development in their respective countries.

In order to achieve this goal, this website will serve as a portal developed through cooperation between the City Bureau of the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT) of Japan and companies and organizations. By providing information on a diverse range of urban infrastructure technologies in a manner that facilitates easy access for relevant parties involved in urban development overseas, and displaying such information on the map, this site aims to enable visitors to Japan to experience first-hand our infrastructure and thus gain an understanding of our urban technologies, including intangible aspects.

We hope that by accessing this website and visiting our country, you will deepen your understanding of Japan's cities and the technologies that support them.

② 都市基盤技術ページ

- ・基本的に日本語サイトと同じ分類で各社にリンク
- ・リンク先コンテンツは25技術(日本語サイトの約1/5)

③ まち歩き(東京)、(大阪)ページ

- ・リンク先コンテンツは32プロジェクト(日本語サイトの約1/4)

下記の課題に対する国、関連団体 & 事務局での対応

- ① 2020年に向けてのサイト充実 (& 海外関係者への紹介)
都市基盤技術の海外展開、シティーセールス等の気運の盛り上がりに伴う参加企業のリンク先コンテンツの更新・追加(特に英語サイト)
- ② アクセス増加に向けた関連団体から本サイトへのリンク
窓口の方に関連資料をメールしますので、ご対応をよろしくお願いいたします
- ③ 参加企業数の拡大
参加希望企業に事務局メールアドレス(2ページに記載)をお知らせ下さい
- ④ 国等の都市基盤技術の海外展開、シティーセールス等の活動との連携

<参考> アクセス実績 (GoogleAnalyticsによる)

平成28年9月30日以降のアクセス実績 (概要)

期 間	9/30~10/31	11/1~30	12/1~31	1/1~31
アクセス数	891	504	333	361
内、海外からのアクセス	26	166	89	17
内、新規ユーザのアクセス	441	162	159	201

海外からのアクセス

<比率の推移>

10月 3% → 11月 33% → 12月 27% → 1月 5%

<10月：26件>

英国：18 米国：4 フランス・ドイツ・シンガポール・パナマ：各1

<11月：166件>

ロシア：112 イタリア：27 オーストリア：10 英国・ドイツ：各7 中国・韓国・米国：各1

<12月：89件>

ロシア：50 米国：30 英国・韓国・香港：各2 フランス・ポーランド・マレーシア：各1

<1月：17件>

米国：10 オーストラリア：3 韓国：2 チリ・香港：各1

※ アジア諸国のアクセス増加に向けた対策が課題